

香川県立ミュージアム運営協議会 令和5年度第1回会議の概要

日時 令和5年8月25日（金）

場所 瀬戸内海歴史民俗資料館（香川県立ミュージアム分館）

議事要旨

- （1）瀬戸内海歴史民俗資料館（香川県立ミュージアム分館）の活動状況（視察）
- （2）香川県立ミュージアム令和4年度事業実績について
- （3）香川県立ミュージアム令和5年度4～7月の事業概要について
- （4）その他

委員から、次のような意見等が提起された。（○：委員ご意見、●：事務局）

○瀬戸内海歴史民俗資料館（以下、「歴民」という）には興味深い民具が展示されているが、単に展示するだけではなくて、ビジュアルでどのように使われていたのかが欲しい。櫓が何に使われていたかなど、もう一步踏み込んだ、映像を流すとか工夫しても良い。県立ミュージアムもだが、もう少し展示の仕方を工夫すれば、展示物により近くなれるかなと思った。

○今の中学校の宿泊学習と瀬戸内海歴史民俗資料館の活用、これが今どうなっているのか。それから子供たちの学習の日は、ワークシートのようなものを表示していたので、案外学習がすんなり子ども達も入っていたような記憶があるがそういうものが、現在どういうふうになっているのか。

●宿泊学習について、今はほとんどの学校は一泊で、歴民への見学がなかなか盛り込まれないのが現状である。去年から少年自然センターとも相談をして、大崎鼻を上がっていく自然観察コースとこの館の見学を組み合わせたものを一つ作れないかということで、コースの検討を進めている。

子供たちのワークシートは歴代あるが、展示も変わってきているので、ベースのワークシートは去年作って、学校に知らせたり、見学の前にご連絡いただいて、学習内容に合わせてシートを作るようなことをやりながら、去年から少しずつ学校での利用が広がるような呼びかけをしている。

○大阪万博に向けて、今、非常に瀬戸内海の注目度が高くなっている。歴民は、瀬戸内海の広域の博物館であるという位置付けから考えても県内だけでなく、むしろ県外からの集客みたいなことが、多分これからだとかかなり需要が高まる。

旅行会社、観光業者にとってはここは注目度も高いはず。ここは有料化をもう一度検討いただきたい。旅行会社からすると、無料の施設は使いにくい。そもそも、ただで行ける所へお金をいただいてお客様をご案内するのは非常に難しい。旅行業者が入

れば、ここのアクセスの問題も解決しやすくなる。

○歴民のように民俗資料が中心で、非常に大きな船も含めて、瀬戸内海の資料を集めている、広域の資料を集めているという所はここだけ。そういった資料館としての特徴というのもアピールして、また、見せ方も含めて考えていただきたい。

○歴民は設計のコンセプトがそもそも健常で元気な人が周ると、その時代はなっていたように思うが、もしできるのであれば、エレベーターとか、長い目で検討いただきたい。

○県展については、展示について今年は例年になく、すっきりとした展示であった。館内の照明が暗い。

○ユニバーサルサービス、今すごく求められていて、照明の話もされていたが、館内のバリアフリーだけでなく、展示の仕方とか、パネルの文字の大きさも含めてニーズは結構高いのかなという感じはしている。改善できるところは改善していただけたらと思う。

歴民はアクセスや施設が古いという問題は出てきてしまうが、県立ミュージアムと連携したイベントとか展示とかがあってもいいのかなと思った。

教育支援というのか、子供とか、教育、研究者のために歴民が使われるのはあるのかなと。また、伝統を伝えることも歴民の重要な役割だと思うので、調査事業をされているということで、報告書をまとめるだけでなく、展示に生かす、伝えていくことも大事だと思う。

○歴民には子供たちにも見てほしいなと思う物がたくさんあったので、子ども達が魅力的に感じるよう演出のしかたを考えて、先ほど映像を流すとかという話もあったので、そういうことがあったらいいのかなと思った。

○デジタルアーカイブで資料そのものをホームページで紹介するという作業は、進んでいるのか。ゆくゆく、大学が持っているものと、県立ミュージアムが持っているものと横断検索できると良い。